

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達相談センター・ベンチ（放課後デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 14日		2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日		2025年 3月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士、言語聴覚士、保育士、社会福祉士、児童指導員と言った専門職が在籍し、プログラムに携わっている。 教師経験の長いスタッフによる学習支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 各専門職がプログラム内容の作成に携わっています。 お子様ひとりひとりのアセスメントを各専門職の視点で行っています。 安心感をもって取り組み、「できた」という達成感と自信に繋がるよう課題の難易度を調整しています。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの専門職が、専門分野の知識や技術を日々の活動で活かせるプログラムを構成し提供していきます。 学校でのIT教育導入の現状に応じた学習支援の提供など、必要な環境整備を行っていきます。
2	年齢の近い少人数グループで編成を行い、集団が苦手な子どもも無理なく参加できるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> 高学年はSSTプログラム（外出体験、買い物、クッキング等）、低学年はADLプログラム（結ぶ・たたむ・おる等）を取り入れ、社会性の獲得に必要なスキルを少人数でトレーニングしています。 学習支援では個々のニーズに合った学習内容を準備しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手なことにも取り組み、出来たことに自信を持てるよう、ご家庭との連携を取って継続していきます。 学習に不安のあるお子様への対応について、保護者の方との状況把握や情報提供を増やしていけるよう努めます。
3	外出体験を通し、公共の場での過ごし方や必要な経験を積み重ねていけるよう取り組んでいる。	公共交通機関の利用や買い物の際、想定されることについて話し合い安心して参加できるよう配慮しています。	活動後の振り返りをするなど、意味のある活動になるよう今後も取り組んでいきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会に参加される保護者同士の交流ができる場が足りないと感じる。	保護者が知りたいことを得て、それに対し必要な情報を発信できるように準備するための時間を確保することが足りていない。	定期的に保護者の方に事業内容や、活動内容、子どもたちの成長を伝えられるような機会や保護者同士の交流の機会の検討をしていく。
2	非常災害に備えて避難訓練を行ったり、保護者に対し災害伝言ダイヤルによる緊急連絡訓練を実施しているが、保護者の方への情報の周知が十分ではないと感じる。	訓練での子どもたちの様子や連絡手段の課題について、保護者との共有を図っていく必要がある。	避難訓練では実際に災害用品を使い、災害時の行動をシミュレーションする機会を設けたり、保護者の方への情報周知の手段を検討していく。
3			